



東 稻 ニュース

第16号

早稲田大学東久留米稲門会

平成16年3月10日発行

発行責任者 高橋 勤

編集責任者 比護 喜一郎

<http://homepage2.nifty.com/35292/>

会の告知板

3月14日(日) 総会前臨時役員会 13:30～ 中央公民館

4月4日(日) 第10回東久留米稲門会総会・講演会・懇親会 14:00～ 成美教育文化会館

講師 川村晃司 演題「ワイドショー政治の舞台裏」

24日(土) 第6回映画サークル 14:00開演 市役所市民プラザ

上映「哀愁」 監督 マーヴィン・ルロイ 主演 ロバート・テイラー、ヴィヴィアン・リー

- 暗く呪わしい戦争の最中、悲しくも美しい恋を描いた恋愛映画の名作。

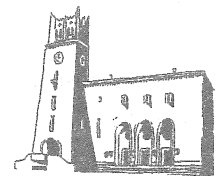
入場無料 (詳細添付別紙参照)

29日(木-みどりの日) 第6回「ウォーキングを楽しむ集い」

- 都心のツツジを求めて JR駒込駅から根津神社へ (詳細添付案内書参照)

[大学・校友会関係]

3月25日(木) 学部/芸術学校卒業式、大学院学位授与式 記念会堂



[部会スケジュール]

書道部会 毎月第2日曜日 13:30～16:30 中央公民館2F集会学習室

太極拳部会 毎週土曜日 10:00～12:00 成美教育文化会館1F

4月3日(土) 野外稽古 花見を兼ね稲荷山公園にて (詳細後日ご連絡)

俳句部会 3月21日(日) 13:30～17:00 中央公民館2F第5集会学習室

兼題:「菜の花」「当季雑詠」

後続年間スケジュール: 4月18日(石神井公園吟行)、5月30日、7月4日、9月5日、

10月31日(一泊二日吟行)、12月19日(兼忘年会)

囲碁部会 毎月第4日曜日 13:30～17:00 成美教育文化会館

ゴルフ部会 4月23日(金) 浦和ゴルフ倶楽部 (委細添付案内書参照)

会の行事

新年会開催ー東久留米稲門会

毎年恒例の新年会が1月17日(土)午後6時から市内の成美教育文化会館で開催。雪が舞う寒い日にもかかわらず、40名もの会員参集、親しく歓談したあと太田(晴)さんの指揮のもと全員で校歌を歌って7時半頃新年会は盛況のうちに終了した。病氣療養中の棚野愛子さんが1年ぶりに元気な姿を見せたほか、新年会に初めて参加された鈴木文雄さん、納見明德さん、山崎敬雄さん、米光慶二郎さんの挨拶があり、歓迎の大きな拍手を浴

びた。一方、病氣療養中で出席を控えられた会員が25名、当日風邪などで体調を崩し急遽参加を取り止めた会員が10名の多きを数えた。一日も早いご快癒が望まれている。



ウォーキング会ー谷中七福神巡り

1月12日午前10時頃田端駅に降り立ったときは、谷中七福神巡りの参加者は23名を数えていた。穏やかな曇り空のもと、土屋さんの先導で細長い列になって歩き出した。

谷中の七福神は宝暦年間（1751～1764）に開創された、江戸最古の七福神といわれ、最も古い七福神の1つだそうだ。東覚寺で福祿寿、青雲寺で恵比寿、修性院で布袋尊と順次おまいりをしてから佃煮の老舗“中野屋”や谷中せんべいの“信泉堂”をのぞき、日暮里駅前から谷中霊園に入った。天王寺で毘沙門天におまいりしてから寛永寺霊園内にある徳川慶喜、谷中霊園内にある長谷川一夫、横山大観などの墓を見て回り、幸田露伴の小説「五重塔」のモデルだった天王寺五重塔跡地の公園内で昼食をとった。昼から霊園を出て、長安寺で寿老人におまいりしてからちょっと寄り道をして全生庵に立ち寄った。この寺は江戸末期から明治維新時に活躍した山岡鉄舟が国事に殉じた人々を弔うために建立した寺で、鉄舟のほか三遊亭円朝、「叱られて」など多くの童謡の作曲家弘田龍太郎などの墓があった。それから寺町の中を歩いて護国院を訪ねて大黒天におまいりし、さらに上野公園へと歩を進め、上野東照宮から寛永寺時鐘堂へと抜けて不忍池の弁天島に出た。最後に見目美しい弁天様にお会いできると楽しみにしていたのに、ここの弁天様は1年に1回、9月11日しかご開帳しないと聞かされ、至極残



念な思いをしたのは私ばかりでなかった筈だ。ここでひとまず解散となったが、うち 18 名はそのまま寛永寺を回って鶯谷駅に出て、豆腐料理で有名な老舗“笹乃雪”で漸く腰を落ち着けた。田端駅を出てから約 9 万歩。お寺と神社と七福神そしてお墓を巡り、満開の蠟梅の芳しい匂いに酔い、ところどころではころび出した紅梅白梅を愛でた約 5 時間の楽しいウォーキングだった。
(帆角信美記)

第 5 回映画サークル — 『誰がために鐘は鳴る』

新春 1 月 24 日(土) 第 5 回映画サークルを開催。上映はゲーリー・クーパー、イングリット・バーグマン主演の「誰がために鐘は鳴る」。映画に極めて造詣の深い当会会員、米光慶二郎さん(写真左)の名解説に始まり、多数の一般市民を含む 100 余名が古典的名画を堪能した。(参加いただいた一般市民の方より有り難いご感想・ご意見をいただいた。後述コラム「市民の声」参照)



部会便り

女性サークル部会

2 月 27 日(金)、今年度最後の例会が「みちわ寿司」で開かれました。初めに平成 15 年度の事業活動と会計報告がなされ、次に次期部長の選出となり、石寺さんに決まりました。その後、食事をとりながら、これからの部活動のやり方等について話し合いました。(部会長 吉川 明美)

太極拳部会

3 月で創部二年半になる。先月で稽古参加が 90 回に達した松崎さんや鮎貝和子さん、更に意欲的に参加される人達が増え、広いと思ったギャラリー室も狭く感じられる程で、4 月度からは毎月一回大ホールでゆったりと稽古することにしました。

本年の活動は野外演舞を増やし、静寂な山間地への一泊旅行も良いかと考えます。先ずは昨年天候不順により延期した、「稲荷山公園での花見太極拳」を実施します。公園一杯の桜樹を觀賞し演舞し、美酒を酌み交わして友好の一時を持ちたいものです。月日は 4 月 3 日(土)現地 11 時頃を予定します。部員外の皆さんも是非ご一緒の参加をお待ちします。
(部会長 船尾和巳)

グルメ部会

－第6回グルメ探訪・豆腐料理を楽しむ会－

ウォーキング会の谷中七福神巡りが、不忍池弁天堂の弁財天を最後に無事終了し、一行18名、上野から歩いて鶯谷駅北口の「根岸・笹乃雪」へと向かう。

笹乃雪は、約32年前の元禄4年創業の豆腐料理の専門店。上野の宮様と呼ばれた寛永寺門跡の輪王寺宮が「笹の上に積もりし雪の如き美しさよ」と称賛されたのが店名の由来となっている老舗で、「豆腐」ではなく「豆腐料理」と称している。製法も創業時のまま、にがりだけを使っているという。



店構えは、以前は古びた和風建物で、それなりに風情があったが、今は立派なビルになっていて、店内には根岸ゆかりの文人墨客の書、絵画などが展示されている。広い玄関から2階の風格のある座敷(個室)に通される。

定刻の午後3時、谷中七福神巡りのリーダー役を勤めてくれた土屋さんの発声で乾杯。小付の生ゆばの豆乳寄せからはじまり、中桶の冷や奴、あんかけ豆腐(二碗一組)、胡麻豆腐、雲水(海老やほたてなどを湯葉で包み豆乳で蒸したもの)と続く。いずれも上品で淡白な味付けで、まさにヘルシーそのもの。ここで暫くおいて、うづみ豆腐(わらびや椎茸の混ざったそばろ状の豆腐をのせたお茶漬)。デザートは豆腐のアイスクリームで、まろやか。他の客も居ないから遠慮も要らず、話も弾む。焼酎のお湯割りやビールで、ほろ酔い気分になりながら、歴史ある名店の滋味をゆっくり賞味し、予定通り4時30分、深澤さんの一本締めでお開きとなった。

(グルメ部会長 神田尚計)

書道部会

入会・見学随時大歓迎です。実用書道を始めませんか。般若心経を写経しながら書に親しみませんか。定期例会は毎月第二日曜日13:00～16:00 中央公民館2F集会学習室です。

(部会長 武藤 豊)

俳句部会

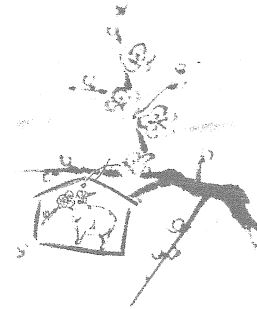
○11月16日(日) 第51回句会 兼題「隙間風」、「当季雑詠」各1句 席題「帰り花」1句

高得点句(3点句以上) *本句会は前号にて掲載漏れました。お詫びして此許掲載するものです*

薄墨の筆のかすれや秋深む	神田 尚計
帰り花旅終え旅を恋ひにけり	太田 蔵之助(千雪)
子の去りし家の広さや隙間風	川島 知子
夜深く猫の連れ来しすきま風	安宅 武一
大かげを描きて西へ寒がらす	高塩 和巳
忙しげな職人の手や日短し	坂本信太郎
ひとり居や足裏をなでる隙間風	神田 尚計

尼一人住まふ庵の隙間風 三田 三(畔巢)
 禅寺は大樹に埋もれ冬構え 松田 博雄
 ○2月11日(水-祝日) 第53回句会 兼題「春燈」「当季雑詠」各1句 席題「下萌」1句
 高得点句(3点句以上)

下萌や一筋深き轍あと	三田 三(畔巢)
残業の遅き子待つ春灯り	川島 知子
下萌えに気づく狭庭の息吹かな	大久保泰司
春灯や路地の酒房の夢二の絵	神田 尚計
ランドセル足音軽き春の朝	坂本信太郎
春灯や馴じみつつある臨書筆	河村 洋子
春曉や飛ばしよみする青春記	棚野 愛子
うららかや鉄ひとつの雨細工	太田蔵之助(千雪)
暮れ初めし橋くぐり行く都鳥	神田 尚計



<会員リレーエッセイ>

噴水広場

桑田暢夫(26年・政経)

これから どうする。私のがん対策。

昭和26年早稲田を卒業して、私を含め5名が三菱銀行に入社した。現在生存者は私独り、青木君は肺、松本君は胃、天野君は肝臓、和田君は食道、夫々ががんを60代後半から70代前半にあいついで世を去った。残った私も、1999年の夏、胃がんの摘出手術を受けた。幸い胃の3分の1が残り、術後も6ヶ月程は食事、排便等で多少は苦労したが、その後日常生活には殆んど支障なく、酒も飲めるようになったし、がんと闘うと云った意識は全くなかった。ただ驚いたのは、術後首から肩、胸腹部にかけて老人特有のからだつきに一変してしまったことである。淋しかった。今もって、風呂あがり鏡を見るのがいやである。

昨年の文芸春秋9月号。がん体験医の患者学―竹中文良、黒木登志夫、川越厚一の中で竹中医師の次の言葉、ご意見に赤線を引いて、幾度も読みかえし、考えさせられた。

“日本のがん治療はどんどん進歩しています。ただ第一線の現場で働いている先生方の視野がちよっと欠けていると思うのは、年齢に対する配慮なんですね。80代の患者さんに40代の人たちと同じ治療をすることによって、かえって非常に苦しめるだけで、放っておいてあげれば4、5年は生きられたのに、死期を早めてしまうこともある。平均年齢を越すぐらいになったら、あまり過激な治療はしないほうがいいと。私は今、自戒を込めて思っています。”

私は胃がんの体験者として、手術の精神的、肉体的な負担が如何に大変なことを味わったし、前述の通り一気に歳をとったようにやつれてしまった。私は既に喜寿を越えて、竹中先生のお説通りに過激な治療はもう無理だなあ、とつくづく感ずる今日この頃である。

これからの私のがん対策＝健康法

一、血液検査は今までどおり年1回実施するが、がんの精密検査は受診しない。たとえ、がんと診断されても過激な治療、即ち、がんの三大治療といわれる手術、放射線、抗がん剤点滴治療は受

けないと決めたのだから。

一、頑張らない。好きなことをして楽しむ。これが、ストレスのない一番のいきいき健康法と思うから。現在の医学では、がんの再発を防ぐ決定的な方法はないようである。大酒飲みでも、一日30本以上の喫煙者でも長寿で元気な人もいるし、節制につとめ励んでもがんにおかされる人もいる。人それぞれの寿命だと思う。70歳まで懸命に働いてきたし頑張っても来た。もう頑張らない。好きなことをして楽しみたい。寝たければ寝る。食べたければ食べる。旅をしたくなれば旅に出かける。好き放題、心のおもむくままに心地よい一刻一刻を、一日一日を楽しみつくしたい。

“不良老年、愚妻を欺かず”を願っている。



私のレシピ

菱山 房子 (32年・文)

早春の香り“露のとう”を味わう三種

- ① 露のとうの味噌汁 露のとうを細かくきざんで煮え立った味噌汁にぱっと入れ火を止める。香りがよく美味。
- ② 露みそ すり鉢でくるみをすり、味噌を加える。露のとうは湯がいて堅くしぼり細かくきざみ味噌に混ぜる。分量は味噌がわずかに若草色がかかる位好みで。かくし味に少量の砂糖も。味噌の代わりにもろみもよい。
- ③ 露のとうの天ぷら 洗った露のとうに天ぷら粉をまぶし、から揚げにし塩を振る。極薄衣の天ぷら衣をつけてもよい。

市民の声

稲門会映画サークルに参加して

北沢裕子さん (上の原在住)

「1945年太平洋戦争終結後どんどん洋画が入ってきました。私は、戦前も観ていた名画もあって嬉しくて、夢中で映画館に日参しました。「誰がために鐘は鳴る」も印象に残っている名画のひとつです。何度観たことでしょう。迫力のある活劇のシーン、過去を彼に打ち明ける苦しさ、それを優しく抱くラブシーン、“鼻が邪魔でキスが出来ない”、ひと時の恋に情熱をもやす別れの時の悲痛な叫び。私は何十年前にタイムスリップ、自分の若き頃を思い返すの心境でした。ゲーリー・クーパー、イングリット・バーグマンはじめ多くの名俳優、誠に懐かしいですね。往年の洋画ファンとして、昔の名画「哀愁」、「旅情」、「ガス燈」、「断崖」等々を市内のスクリーンで観られることを期待して楽しみに待っています。なにかとご苦労と存じますが、なにとぞよろしくお願いいたします。」

(編集部註) 本文は当日、編集子のリクエストに応じて寄せていただいた感想文です。紙幅の関係で失礼ながら一部省略させていただきました。

【編集後記】 確定申告書を作成し終えて、年金の先細りへの懸念がまたぞろ頭をよぎった。二宮金次郎型寄りの生活をしなければと思った矢先、九州の田舎に引退したケインズ型の旧友から電話があり、久しぶりに上京するからゴルフ、麻雀、飲み会しようという。今度も二宮金次郎はもろくもケインズに論破された。申告書を提出して税務署を出ると初春の光が眩しかった。